

※1: 令和3年度自然環境保全基礎調査成果の活用実態等の収集・整理業務報告書より、RDB、環境白書、環境基本計画、生物多様性地域戦略、緑の基本計画の利用件数。

※2: 環境省「環境影響評価情報支援ネットワーク」における「環境アセスメント事例、縦覧期間終了後の環境影響評価図書の公開」への掲載件数(2019年度以降)。

※3: shpファイルを提供している調査を対象に2019～2021年度の件数を集計。

※4: Nの値は、現状で把握可能なデータ・情報を元に、成果活用のニーズの高さの「目安」として示したものの、①～⑤の各列の値(①と②は施策の●の数)をx①～x⑤とし、その列の最大値で除した値X①～X⑤を算出(各列の値は0～1の間を示す)。各行(小区分)のX①～X⑤の合計値をXとすると、⑤のshpファイル提供の有無によって各行の最大値Xmaxは5または4になる。ニーズの高さNiは各行のXの値をXmaxで除して標準化した値。

大区分	中区分	小区分	調査計画検討の観点					
			活用が想定されるアウトカム		③地方自治体の利用状況※1	④環境アセスの利用状況※2	⑤自然環境情報GIS shpファイルDL件数※3	ニーズの高さ※4 (0≦N≦1)
			①自然環境保全の情報基盤	②近年の保全施策上の要請への対応				
①種の分布等の調査	陸生動物	陸生哺乳類(全種)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-2-1, M1-4-2</li> <li>●生物多様性総合評価(JBO3): 日本固有種の確認種数</li> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●鳥獣保護管理</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	10 ※「陸生哺乳類の分布調査」として集計	5 ※「陸生哺乳類の分布調査」として集計	—	0.5
		中大型哺乳類(分布) ※要注意鳥獣(クマ等)生息分布調査、種の多様性調査(アライグマ生息情報収集調査)を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-2-1, M1-4-2</li> <li>●生物多様性総合評価(JBO3): ニホンジカ、イノシシ、クマ等の分布域</li> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●鳥獣保護管理</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鳥獣被害防止</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> </ul>	10 ※「陸生哺乳類の分布調査」と「種の多様性調査(アライグマ生息情報収集調査)」の合計	7 ※「陸生哺乳類の分布調査」と「種の多様性調査(アライグマ生息情報収集調査)」の合計	1,318	0.3
		中大型哺乳類(個体数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-2-1, M1-4-2</li> <li>●鳥獣保護管理</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鳥獣被害防止</li> </ul>	0	0	—	0.2
		陸生鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-8-2, M1-9-1</li> <li>●生物多様性総合評価(JBO3): 日本固有種の確認種数、ムクドリ等の1990年代からの増減と住宅地率の関係</li> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●鳥獣保護管理</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	4	13	—	0.5
		両生類・陸生爬虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生物多様性総合評価(JBO3): 日本固有種の確認種数</li> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	9	1	—	0.4
		昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	11	1	—	0.3
		淡水魚類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-2</li> <li>●生物多様性総合評価(JBO3): 日本固有種の確認種数、河川の連続性、侵略的外来種の分布の拡大(オオクチバス)</li> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	7	1	—	0.4
		陸産及び淡水産貝類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●外来種対策</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	4	1	—	0.3
	海棲動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重要地域の保全</li> <li>●希少種の保護</li> <li>●環境影響評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再エネ施設候補地のアセス</li> <li>●OECM: 候補地抽出</li> <li>●既存保護地域の拡張</li> </ul>	2	0	—	0.3	

調査計画の観点整理表（成果活用のニーズ）

※1: 令和3年度自然環境保全基礎調査成果の活用実態等の収集・整理業務報告書より、RDB、環境白書、環境基本計画、生物多様性地域戦略、緑の基本計画の利用件数。

※2: 環境省「環境影響評価情報支援ネットワーク」における「環境アセスメント事例、縦覧期間終了後の環境影響評価図書の公開」への掲載件数(2019年度以降)。

※3: shpファイルを提供している調査を対象に2019～2021年度の件数を集計。

※4: Nの値は、現状で把握可能なデータ・情報を元に、成果活用のニーズの高さの「目安」として示したもの。①～⑤の各列の値(①と②は施策の●の数)をx①～x⑤とし、その列の最大値で除した値X①～X⑤を算出(各列の値は0～1の間を示す)。各行(小区分)のX①～X⑤の合計値をXとすると、⑤のshpファイル提供の有無によって各行の最大値Xmaxは5または4になる。ニーズの高さNは各行のXの値をXmaxで除して標準化した値。

大区分	中区分	小区分	調査計画検討の観点					
			活用が想定されるアウトカム		③地方自治体の利用状況※1	④環境アセスの利用状況※2	⑤自然環境情報GIS shpファイルDL件数※3	ニーズの高さ※4 (0≤N≤1)
			①自然環境保全の情報基盤	②近年の保全施策上の要請への対応				
①種の分布等の調査	植物	植物分布	●生物多様性総合評価(JBO3): 日本固有種の確認種数、侵略的外来種の分布の拡大(アレチウリ)、ブナの生息適地の変化予測 ●重要地域の保全 ●希少種の保護 ●外来種対策 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張	0	0	—	0.3
		植物目録	●希少種の保護	—	2	0	—	0.0
②生態系調査(面積・概況把握)	陸域	植生	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-4-2, T1-2-5 ●生物多様性総合評価(JBO3): 国土を特徴づける自然生態系を有する地域(森林・陸水・沿岸)、農地とその他の土地被覆のモザイク性を指標とした里地里山地域の分布、森林率の分布、過去の開発により消失した生態系(短期的な土地利用変化)、保護地域と国土を特徴づける自然生態系とのギャップ ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●カーボンニュートラル: 二酸化炭素吸収源算出根拠 ●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	55	28	38,852	0.8
		特定植物群落	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, T1-2-5 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張	44	64	2,682	0.6
		土地利用・土地被覆	●生物多様性総合評価(JBO3): 緑の多い都市域 ●環境影響評価	—	0	0	—	0.2
	陸水域	河川 ※陸水域自然度調査を含む	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-2, M1-6-3, T1-2-7, T2-7-1 ●生物多様性総合評価(JBO3): 陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	4	0	939	0.3
		湖沼 ※陸水域自然度調査を含む	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-4-2 ●生物多様性総合評価(JBO3): 1990年頃の主な湖沼の湖岸の改変状況、陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	1	1	319	0.3
		湿地	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-6-3, T1-2-7, T2-7-1 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	2	7	968	0.3

調査計画の観点整理表（成果活用のニーズ）

※1: 令和3年度自然環境保全基礎調査成果の活用実態等の収集・整理業務報告書より、RDB、環境白書、環境基本計画、生物多様性地域戦略、緑の基本計画の利用件数。

※2: 環境省「環境影響評価情報支援ネットワーク」における「環境アセスメント事例、縦覧期間終了後の環境影響評価図書の公開」への掲載件数(2019年度以降)。

※3: shpファイルを提供している調査を対象に2019～2021年度の件数を集計。

※4: Nの値は、現状で把握可能なデータ・情報を元に、成果活用のニーズの高さの「目安」として示したものの、①～⑤の各列の値(①と②は施策の●の数)をx①～x⑤とし、その列の最大値で除した値X①～X⑤を算出(各列の値は0～1の間を示す)。各行(小区分)のX①～X⑤の合計値をXとすると、⑤のshpファイル提供の有無によって各行の最大値Xmaxは5または4になる。ニーズの高さNは各行のXの値をXmaxで除して標準化した値。

大区分	中区分	小区分	調査計画検討の観点						
			活用が想定されるアウトカム		③地方自治体の利用状況※1	④環境アセスの利用状況※2	⑤自然環境情報GIS shpファイルDL件数※3	ニーズの高さ※4 (0≤N≤1)	
			①自然環境保全の情報基盤	②近年の保全施策上の要請への対応					
続き ②生態系調査（面積・概況把握）	沿岸域	海岸 ※海域自然度調査、沿岸調査を含む	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-4-2 ●生物多様性総合評価(JBO3): 陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	5	0	678	0.3	
		干潟	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-6-3, M1-6-3, T1-2-7, T2-15-2 ●生物多様性総合評価(JBO3): 陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	35 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	10 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	725	0.4	
		藻場	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-6-2, M1-6-3, T1-2-7, T2-7-1, T2-15-2 ●生物多様性総合評価(JBO3): 陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災 ●ブルーカーボン: 二酸化炭素吸収源算出根拠	35 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	10 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	1,786	0.5	
		サンゴ礁	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-4-1, M1-6-2, T2-15-2 ●生物多様性総合評価(JBO3): 陸水域・沿岸域における生態系の規模等 ●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張 ●生態系を活用した防災・減災	35 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	10 ※「藻場・干潟・サンゴ礁調査」として集計	483	0.4	
		海岸生物(潮上帯・潮間帯)	●重要地域の保全 ●希少種の保護 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張	0	0	—	0.3	
		海域環境(赤潮)	—	—	0	0	—	0.0	
	全域	景観	●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 候補地抽出 ●既存保護地域の拡張	6	10	—	0.3	
		すぐれた自然	●重要地域の保全 ●環境影響評価	●再エネ施設候補地のアセス ●OECM: 物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張	2	0	—	0.2	
	③インベントリ調査	地域的総合調査	地域的総合調査(生態系多様性地域)	●重要地域の保全	—	3	1	—	0.1
			基礎データの整備(環境寄与度)	—	—	0	0	—	0.0

調査計画の観点整理表（成果活用のニーズ）

※1: 令和3年度自然環境保全基礎調査成果の活用実態等の収集・整理業務報告書より、RDB、環境白書、環境基本計画、生物多様性地域戦略、緑の基本計画の利用件数。

※2: 環境省「環境影響評価情報支援ネットワーク」における「環境アセスメント事例、縦覧期間終了後の環境影響評価図書の公開」への掲載件数(2019年度以降)。

※3: shpファイルを提供している調査を対象に2019～2021年度の件数を集計。

※4: Nの値は、現状で把握可能なデータ・情報を元に、成果活用のニーズの高さの「目安」として示したもの。①～⑤の各列の値(①と②は施策の●の数)をx①～x⑤とし、その列の最大値で除した値X①～X⑤を算出(各列の値は0～1の間を示す)。各行(小区分)のX①～X⑤の合計値をXとすると、⑤のshpファイル提供の有無によって各行の最大値Xmaxは5または4になる。ニーズの高さNIは各行のXの値をXmaxで除して標準化した値。

大区分	中区分	小区分	調査計画検討の観点					
			活用が想定されるアウトカム		③地方自治体の利用状況※1	④環境アセスの利用状況※2	⑤自然環境情報GIS shpファイルDL件数※3	ニーズの高さ※4 (0≦N≦1)
			①自然環境保全の情報基盤	②近年の保全施策上の要請への対応				
④その他	一般参加型調査	巨樹・巨木林	●重要地域の保全 ●環境影響評価	●OECM: 物多様性の価値基準	13	51	2,668	0.3
		海の生きもの	—	—	0	0	—	0.0
		生きもの全般 (いきものログ) ※身近な生きもの調査、いきものみつけ、を含む	●重要地域の保全 ●希少種の保護 ●外来種対策 ●環境影響評価	●OECM: 候補地抽出 ●鳥獣被害防止	5 身近な生きもの調査:0 いきものみつけ:0 いきものログ:5	8 身近な生きもの調査:0 いきものみつけ:4 いきものログ:4	—	0.3
	過去の鳥獣分布調査	過去(江戸時代)の鳥獣分布	●鳥獣保護管理	—	0	0	—	0.0
	遺伝子に関する調査	遺伝的多様性	●次期生物多様性国家戦略: 指標M1-7-1	—	0	0	—	0.0
	気象に関する調査	積雪情報	—	—	0	0	—	0.0
	手法開発・手法検討	リモートセンシング (自然環境概況調査)	—	—	0	0	—	0.0
		モニタリング (生態系総合モニタリング)	—	—	1	0	—	0.0
		調査手法検討のための調査 (種の多様性調査: 都道府県委託)	—	—	4	2	—	0.0
	有識者ヒアリングで提案された調査	外来種の分布調査	●外来種対策	—	—	—	—	—
		シンボリックな自然の調査 (例:「巨樹・巨木林調査」の枠組みを、海域のサンゴ礁に適用)	●重要地域の保全 ●環境影響評価	●OECM: 生物多様性の価値基準 ●既存保護地域の拡張	—	—	—	—
		都市の生物多様性	—	●OECM: 生物多様性の価値基準／候補地抽出	—	—	—	—